

福島第一原子力発電所現地確認報告書

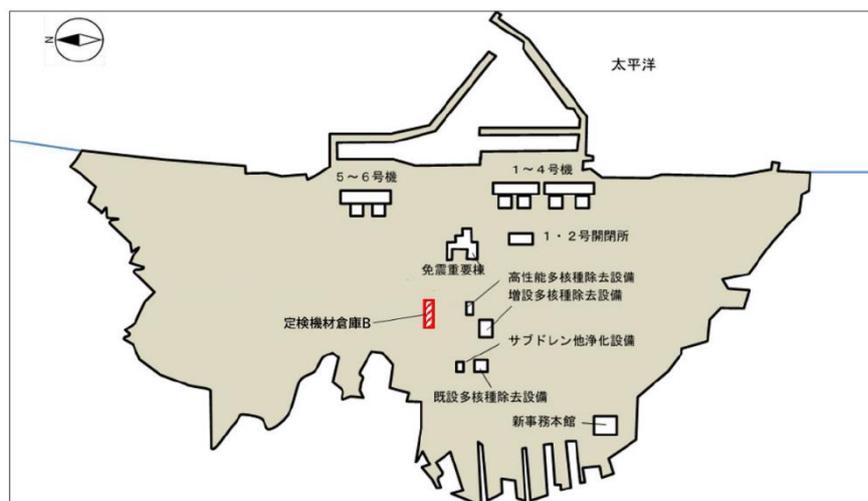
- 1 確認日
令和6年9月25日（水）
- 2 確認箇所
定検機材倉庫B（図1）
- 3 確認項目
横置き型ブルータンクの解体除染作業の状況

4 確認結果の概要

横置き型ブルータンク（以下「ブルータンク」という。）は、震災直後に増え続ける建屋内滞留水の移送先として使用されていた。しかし、敷地利用の観点から縦型溶接タンクへの移行が進み、現在当該タンクは、使用されず福島第一原子力発電所構内に貯留水を排水の上、仮置きされている。

使用開始から10年以上経過し外面に塗装剥がれが見られるため、東京電力は、定検機材倉庫B内にブルータンクの解体除染設備を設置し、全367基の解体及び除染を今年度から実施する計画としている。今回は、前回に引き続き、計画の進捗状況について確認した。（前回確認：[令和6年8月30日](#)）

- ・定検機材倉庫B内は、4つのブース（ブルータンク搬入ブース、切断ブース、FRP*剥離ブース、搬出ブース）に分けられており、それぞれのブースで設備設置作業が進められていた。（写真1）
- ・切断ブースでは、ブルータンクの受け台、切断カッターの設置が完了していた。（写真2）
- ・東京電力は、設備設置完了後、汚染のないタンクでモックアップ試験を実施した上で、運用を開始するとしている。



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図

※FRP：プラスチックにガラス繊維や炭素繊維などを複合して強度を向上させた強化プラスチックのこと。



(写真1-1)
定検機材倉庫B西側の状況
※仕切り壁奥：搬入ブース
※仕切り壁手前：切断ブース



(写真1-2)
定検機材倉庫B東側の状況
※仕切り壁手前：FRP剥離ブース
※仕切り壁奥：搬出ブース



(写真2-1)
切断ブースの状況①
※切断時に金属のローラでブルー
タンクを受ける



(写真2-2)
切断ブースの状況②
※回転式の cutter によりブルー
タンクを切断する



(写真 2-3)
切断ブースの状況③
※カッター部分の接写

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。